

idea

NPO・行政・企業・地域の情報発信により、アイデアと出会いの機会を創ります。
ニュースレター アイデア

2015
2月号

つながり×ひろがる

いちのせき市民活動センター



～ も く じ ～

- 2 | 二言三言～**出会いは宝物!**～
- 4 | 団体紹介～**火盗難防止会**～(藤沢)
- 5 | 地域紹介～**花泉町涌津 合の柴自治会**～(花泉)
- 6 | 企業紹介～**千住スプリンクラー株式会社 岩手事業所**～(東山)
- 7 | センターの〇〇～**狩野支援員のお仕事術**～

フタコ×ミコト 第9回 二言三言 16/124,361

出会いは宝物！

～新たな創造・ヒント・アイデアなど人と人との出会いの中で相互に良い情報を見つける～

対談者 株式会社 千厩マランツ 代表取締役社長 及川 宏 さん
一関糧運 株式会社 代表取締役社長 岩淵 力也 さん
聞き手 いちのせき市民活動センター センター長 小野寺 浩樹

地域のためなら業種や業態にこだわらず



【小野寺】本日は、一関というまちにおいて、企業として地域との連携やあり方の考えを聞かせていただき、共有したいと思います。

この企画の第1回目に市長と対談し、「市民・企業・NPO・行政も『いち市民』であり、4者が協力し多様な主体性を活かすために、地域づくりにおいて、企業の更なる参加を期待している」とのお話がありました。毎月、情報紙 idea の中で企業を取材していると、それぞれ面白いことを考え、取り組んでいるのを感じます。千厩マランツさんでは一関市内全世帯配布の小型ラジオ等電子機器製造に関わる業種ですが、分野の全く違う椎茸の生産・加工等を企業として取り組んでいますよね。その発想はどういった流れから来たのでしょうか。

【及川】発想の流れとしては、工場内の遊休場所を有効に使いたい、さらに高年齢者雇用安定法が改正され、60歳定年後、希望者は65歳まで継続雇用ができるという時代の変化ですね。

製造工程において重要な視力は加齢とともに自然と低下しますから作業に支障が出てくるので、どのような形で雇用を継続していけばよいか、最初から「できない」のではなく、「できる方法」を探しました。その時、従業員からの提案や、地域性として農業経験者（兼業農家）が多いという事もあり「農作物を工場

内で生産してみよう」となったのです。農産物の中でも、椎茸は一年中生産・出荷が可能で、外にハウスを作ったりするわけでもないので大きな投資も要らず、天候にも左右されないといったメリットが多く、その結果が現在の形となりました。

【小野寺】なるほど。従業員からの提案と、定年後の継続雇用に対する「できる方法」を模索した結果からの取り組みなのですね。さて、一関糧運さんは運送業の他、介護福祉事業NPO法人ケアセンターいこいを立ち上げていますね。どのようなきっかけがあってまったく異業種の団体を立ち上げたのでしょうか？



【岩淵】基本的に一関糧運という企業の会長（当時社長）が介護福祉団体の理事長という形で、ベースでは繋がっていますが、企業との関わりはないんです。ただ、地域への恩返し事業については、企業と団体で協力して開催しています。昨年24回目を迎えた市内スポーツ少年団駅伝競走交流大会は、市内児童の健全育成とスポーツ少年団の交流と地域貢献を従業員一丸となってしよう！という目的があり、当初は弊社独自の事業でした。10年ほど前からは一関市陸上競技協会主催の一般駅伝を同時開催することとなり、弊社では共催という形となっていますが、当初の目的には変わりはありません。

毎年恒例、大鍋3つで作る社員手作りの豚汁は選手や家族、応援団すべての人に振る舞います。「何かで恩返ししたいね」という地域に対する会長の熱い気持

ちがありますから、運送業と介護福祉事業は中身としては全くの異分野なわけですが、地域貢献という形においては一緒に協力しましょうというスタイルです。

【小野寺】一関糧運さんのトラックはケアセンターいこいさんの夏祭りで簡易ステージになっていましたよね？

【岩淵】そうです。トラック1台が簡単にステージとなるので重宝されています。他でも声をかけていただくとやりますし、声を掛けられれば嬉しいですね。



見かたを変えれば地域も変わる

【小野寺】さて、電子機器の製造業、運送業とまったく分野が違うお二方からみて一関市の経済状況をどういうふうに見ていますか？

【及川】難しい質問ですね。業界によってさまざま、全然違うと思いますね。我々のような電子機器製造業に関しては大手が海外に持って行かれ、地方工場が撤退しているのが現状。モノづくりの業界で言えば厳しい状況なのかなと。

【岩淵】私達は、地域経済に直結して物を運びますから地域の活性化は昔に比べれば下火になってきたと感じます。みんな向く方向が「東京向き」なんですよ。「地域に対して」というのはなかなかなくて、余裕もないっていうのが現状なのかなと。確かに、仕事をする上では、南向きの方がやりやすいところがあるので、企業としては仕方がないのかもしれない。

【及川】基本的にはね、企業は利益追求をして存続しているわけですから、中央向きになってしまうわけですね。今後はそういった意識も変わっていかねばとは思いますが。「地元で買えるものは地元で買しましょう」みたいな。地味なこと、小さなことかもしれないが・・・「お互い様」という気持ちになって変わっていけば、まちや地域が盛り上がるのではないのでしょうか。

【小野寺】やっぱり皆さんで「できる限り地元のものを使いましょう！地元で買ってお付き合いしていきましょう！」という気持ちがあることで変化もあるでしょうね。自己完結型でなくとも市内の経済活性はお互い持ちつ持たれつの意識がすごく大事ですよ。

【岩淵】介護施設運営をしてみて、その気持ちや大切さは身に染みんでいます。設備関係の修理なんかは電話一本で、地元の修理屋さんが頼りになりますね。値段はかかるけど、それ以上の価値がある。すごく大事なと最近余計に感じますね。ありがたいですね。

【及川】やっぱり、地元の店がなくなったら将来困りますよね。大手の会社は「だめだ」と思えば、たとえ行政が支援しても去るんです。地元はそうはいかない。去りようがない。

【小野寺】そうですね。やっぱりお互い持ちつ持たれつの関係性がカギなのかもしれませんね。

高めていこう！地域の要素

【小野寺】では、最後に5年後一関市がどんな姿であってほしいかお聞かせください。

【岩淵】先ほど「南向き」の話をしましたけど、僕は少しでも「地域向き」になっていて欲しいなと思います。現在青年会議所にも所属しているので、そういう面では余計に思うところがありますね。

【及川】私は、若い人が溢れるまちになってもらいたいですね。それにもつながることと思うのですが、ILCにもものすごく期待したいです。工業系の仕事をしているので余計にそう思うのかもしれませんが、ILCを一つの起爆剤として、若い人たちがやる気になってほしいと思いますね。

【小野寺】そうですね。みんなが「やるぞ！」という高揚感が高ぶっているまちになったらもっとも「一関に住みたいな」って思いますよね。尚且つ「地域向き」。よそに頼らず、産業が産まれていくことも一関のこれからは大事なんじゃないかなと思っています。千厩マランツさんが作っている椎茸もそうですが、一次産業の部分でも結構面白いことをやっている農家さんも多いですからね。

【及川】そういう意味じゃ、一関は要素を持つてるよね。

【小野寺】そうですね。一次産業から三次産業まで、ある程度そろっているんで、そのそろっているものをどう高めていこうかってところがこれから必要なのかなと思いますね。

基本情報

【株式会社 千厩マランツ】

住所 〒029-0803 一関市千厩町千厩字下駒場 254

TEL 0191-53-2321 FAX 0191-53-2323

URL <http://www.senmaya-marantz.co.jp>

【一関糧運 株式会社】

住所 〒021-0902 一関市萩荘字鍋倉 19-2

TEL 0191-21-1555 FAX 0191-21-5289

URL <http://www.ginga.or.jp/ryoun/>

紙面で紹介しきれなかった部分は、「こぼれ話」としてブログに掲載しています。

URL blog.canpan.info/ichinoseki/category_15/1

団体 紹介



会長 佐藤四郎 さん

～基本情報～

- ◆会長：佐藤 四郎 さん
- ◆連絡先：〒029-3405
一関市藤沢町藤沢 12
- ◆電話：0191-63-3383

安心・安全に暮らせる地域のために 明治から続く防火活動

過去の歴史から学び、自分達の力で地域を守る

藤沢の町で、地域の防火・防犯活動を続けて120年以上になる火盗難防止会。会の活動や防火に対する思いについて、会長の佐藤四郎さんにお話を伺いました。

会発足のきっかけとなったのは、明治15年、明治21年の旧暦1月12日に藤沢町藤沢地区の仲町で大火災が続いた「明治の大火」。火事の被害だけでなく、火事に乗じた盗難被害も起きたことから、地域住民の防火と防犯に対する意識が強まり、地域を守る自警団として組織されました。

発足当初は、竹駒神社（赤坂神社）の鐘楼付近に回番小屋を設置し、毎晚会員が交代で夜を徹して回番を行いました。近年は少子高齢化や生活形態の変化から、昔のやり方では負担が大きいということで、毎週火曜日に交代で隣同士の会員と一緒に夜の9時頃に回番を行っています。隣の家の人と一緒に回番を行うことで、お互いを知る交流の機会ともなっています。

会の発足後、火事は減り、火事場泥棒もいなくなりましたが、いつ火災が起きても自分たちで対処できるように地域の消火栓等の維持管理も行い、春と秋の防火デーには消火器を使って消火訓練を行っています。

地域みんなで火の用心“火伏祭”

会の大きな行事として毎年、大火災が起きた旧暦1月12日に地元消防団や婦人消防協力隊と協力して「火伏祭」を開催しています。「子供の頃から防火思想を持ってほしい」という願いから、子供達が消防車に先導され、火の用心や盗難防止の標語を呼びかけながら町をパレードします。また、昔は同日を「魔の日」として、その日は各家庭でできるだけ火を使わないで生活するという時期もあったそうです。

火伏祭に参加した子供にはこれまで、お菓子をプレゼントしていましたが、災害時の緊急情報伝達手段として一関コミュニティFM専用ラジオが全世帯に配布されてからは、毎年必要な電池交換のために、電池をプレゼントしています。「少子化のため、パレードへ参加する子供が減っていることが悩み」と話す佐藤さん。今年は低年齢の子供でも参加しやすい工夫を役員の方々と話し合っているそうです。

防火の思いと共に育まれる地域の絆

子供の頃東京に住んでいた佐藤さんは、東京大空襲を間近で経験し、「あの時の焼け野原を見た記憶から、火災を恐いと思う気持ちは人一倍強い」と話します。また、地元を離れ仕事をしていた期間が長く、当時は自分の地域についてわからないことも多かったことから、「退職後に会に参加してから、単に防火・防犯意識の向上だけでなく、活動を通して人と人とのふれあいや、そこから生まれる絆を感じている。みんな忙しいが、先輩方から受け継いできたこの活動をなんとか続けていきたい」と続けました。

みんなが地域で安心・安全に暮らせるよう願いを込め、今夜も藤沢の町に拍子木と鐘の音が鳴り響きます。



昨年の火伏祭の様子

子供達のパレードが火の用心を呼びかけます

地域 紹介



会長：平野忠二さん(中央)
理事：菅原清さん(左)、菅原熊雄さん(右)

～基本情報～

- ◆会長：平野忠二さん
(平成 23 年度～ 2 期 4 年目)
- ◆合の柴自治会は 36 世帯約 120 人が住む農村地帯にあります。地区内で最初に自治会を作り、効率的な活動を目指しています。

自治会を作り活動しやすい集落組織を目指す

活動拠点は母校

合の柴集落は、国道 342 号線花泉バイパスの涌津交差点付近から南側に入った丘陵地に広がる農村地帯です。今回は合の柴自治会館を訪問し、会長の平野忠二さん、理事の菅原熊雄さん（総務部長）、菅原清（生活環境部長）さんからお話を伺いました。

会館のある一帯には運動場や体育館があり、とても広い場所になっています。元の^{いのとし}亥年小学校（昭和 58 年に涌津小学校と統合）跡地と聞き納得しました。現在は亥年コミュニティセンターとなり、体育館やゲートボール場があり地域の人たちに利用されています。また、市営花泉弓道場が体育館そばにあり、公式大会も行われます。自治会館は元の小学校校舎の一部で、統合後しばらく幼稚園舎として利用されていましたが、移転後に自治会館として利用しているそうです。

この会館では、春は総会やお花見会、夏は夏祭り、冬は新年会や祝寿会が行われ、ほとんどの世帯が参加して昔からの交流を深めているそうです。「会議室や畳の部屋もあり使い勝手のいい建物です。自治会活動には大いに役立っています。百里の会という高齢者の会もあり皆さんは集まりをととても楽しみにしています」と会長さんがうれしそうに語ります。正に母校での集いには思い出話に花が咲きそうな気がしました。

自治会で集落組織がすっきり

合の柴自治会が発足して今年で 4 年目を迎えます。設立当時集落公民館長として携わった菅原清さんは「集落内に様々な組織があり、何かすっきりする方法がないかと考えていました。平成 20 年にあった市の協働のまちづくりについての説明会の中で、自治会設立の話題が出てそれが契機となりました」と語ります。

約 2 年かけて集落内で話し合いを持ち、平成 23 年 4 月に涌津地区で最初の自治会が発足しました。

自治会は、集落公民館、農家組合の 2 つの組織を一本化したものです。役員は、会長、理事(3 名)「総務部長(=集落公民館長)・産業経済部長(=農家組合長)・生活環境部長(=公衆衛生組合長又は行政区長)」、班長(6 名)、事務局兼会計、監事(2 名)等で構成されています。また、会費は年 4,000 円でそれぞれの組織の集金も一つにし、とてもまとめやすくなりました。菅原熊雄さんは「自治会を作る際は特に反対はありませんでした。作ったことで団結力が強くなったようです。自治会夏祭りを行ったところ子供も大人も大喜びで大盛況でした」と語ります。

協同の精神で課題解決

合の柴集落は隣接する亥年集落と共に涌津第 4 行政区で、第 3 行政区と一緒に元の亥年小学校区。昔からの付き合いが続く集落ですが、少子高齢化に伴い、年々地区活動は厳しくなっているのが現状。「人をいかにして集めるか、特に若い世代につなげる工夫を考えないといけなくなりました。若い人たちに魅力を感じてもらえる自治会活動が課題です」と会長さんは語ります。また、地区の共同作業への参加が少なくなっていくことで「同じ行政区内の統合、更には元亥年小学校区内の行政区の統合も考えていく必要があるでしょう」と皆さんは語ります。

魅力ある自治会活動を行うことはもちろん、隣接する集落と協力しながら地域活動を維持していこうと、将来を見据えた話を聞かせていただきました。



大盛況の夏祭り

千住スプリンクラー株式会社 岩手事業所

企業 紹介



常務取締役 岩手事業所長
菊池 光明さん

～基本情報～

- ◆岩手事業所長：菊池 光明 さん
- ◆連絡先：〒029-0302
一関市東山町長坂字丸森 86-1
- ◆電話：0191-47-3388
- ◆FAX：0191-47-3881
- ◆URL：http://www.senjusp.com

地域の一員として活動を支える

「一関市東山町から世界に！」が合言葉

千住スプリンクラー株式会社は、昭和49年に親会社である千住金属工業株式会社から製造部門のみ独立し、翌年に一関市東山町の柴宿地区に岩手工場を構え操業を開始しました。生産数が増えたことや、当時の東山町長が企業誘致に熱心であったことも加わり、平成2年に同町丸森地区にも工場を構え現在に至ります。

同社が生産している、消火用のスプリンクラーヘッドやバルブは、昭和50年代に大型店舗・観光ホテル等の大火災が相次ぎ多数の死者が出たことにより、消防法が改正し設置を義務化。高層ビルや大型商業施設等のほか、現在は比較的小規模な福祉施設等へも設置が義務づけられ需要が伸びています。国内には同社と同様の製品を開発・製造している企業が数社ありますが、なんと全メーカー出荷数のうち、同社は約70%ものマーケットシェアを占めているのです。「平成8年にアメリカの試験検査機関『UL』による住宅用スプリンクラーヘッドの認証後、国内だけではなく海外へ目を向けてきました。当社が40年間培ってきた生産技術と『安心』を、今後もここ東山町から世界へお届けしていきたい」と語るのは、岩手事業所長の菊池さんです。

企業人も地域の一員である

一関市は、平成22年4月から地域の消防団員として2名以上入団している事業所や従業員の消防団体活動に対して特段に考慮している事業所等を消防団協力事業所と認定し、その証として表示証を交付しているのをご存知でしょうか？

同社の従業員は、133名のうち約8割が旧東磐井を中心とした市内から採用し、そのうち10名ほどが地域

の消防団に所属しています。同社は平成25年7月に市の消防団協力事業所として認定されており、火災発生等の緊急事態には出動要請を優先し、その要請が発令した翌日は、同社独自の制度で休暇を得ることができます。「当社では『労働・倫理・健康と安全・環境』の4つのポリシーに基づき企業活動を行っていますが、地域貢献という言葉の『あれもしました、これもしました』ではなく、一人ひとりが『地域の一員としてどう関わるか』を企業として支えることが大事なのではないと感じます」と語る菊池さん。自身も、22歳で地元へUターンし、自治会活動も積極的に取り組んできました。「仕事人として企業に勤めていても、家に帰れば地域の一員。自治会活動は現在も役員などいろいろ任せられたりするけれど、苦にはならないよ」と続けます。

江戸の火消しと平成の火消し

「江戸時代の消防は、威勢のいい火消しが活躍しました。現代では、自動消火スプリンクラーシステムが快適で安心な環境を守ります」これは、同社の会社案内に書かれてある文章の一部です。製造工程及び消火能力や環境活動の取り組みについて多くの方々に知っていただくために、工場見学を随時受け入れています。これまで、各地域の消防団や地元中学校の職場見学の受け入れをしてきました。事前に同社に連絡をすれば最大30名まで見学可能とのこと。

一関市東山町から世界に羽ばたく開発・製造技術と消防団協力事業所として地域に根ざした企業の在り方をご覧になってみてはいかがでしょうか？



岩手事業所丸森工場
管理棟【五行山十駕堂】



センターのまるまる!

—狩野支援員のお仕事術—

今月号は、花泉町と川崎町を地域担当にもつスタッフ・狩野支援員の1か月をご紹介します。地域の会議やヒアリング、NPO・公民館・各支所への定期訪問など、毎週大忙しで地域を回っています。外歩きの際は、地域の食堂で昼食をとることが多い狩野支援員。それをまとめた地域の“ある情報マップ”が完成しました。

1 毎月、花泉と川崎地域を歩いています



定期訪問

毎月の月初め、idea や助成金情報を持ち、担当する花泉地域と川崎地域の団体等 30 数か所を訪問します。あらかじめ訪問時刻の連絡と調整、訪問先の情報等の収集をして話題づくりの種を持って臨みますが、ハプニングも…。

2 集落公民館長さんに地域のことを伺います



ヒアリング

一昨年からはじめた自治会ヒアリングは、これまで老松地区、涌津地区、油島地区の計 31 集落を終えました。地域活動の様子、地域の自慢や課題など、地域のリーダーからの話は地域づくり支援に携わる者にはとても参考になります。

3 地域の会議に参加します



話し合い

市が進めている地域協働体の設立。設立に向けた話し合いは、設立準備会、地区懇談会へと進み、公民館を会場に夜間に開催されます。行政と住民との間に立つ中間支援の立場で臨むものの、行うはやはり難しいものです。

4 地域の情報を集め、まとめます



ラーメンマップ

毎月の定期訪問を主に、地域の情報を集めるために出かけています。出かけた場所で食べることはその地域を知るいいチャンスと、お昼は食べ物屋さんへ。それが積み積み積もって「ラーメンマップ」を作っていました。

普段の業務を振り返って

地域支援員の仕事を始めて2年目となりました。当初、担当地区を回るにも道順がわからなくウロウロしていましたが、最近は脇道も覚え訪問先を最短で結ぶコースを描けるようになりました。Sidea の表紙にできる良い景色の写真が撮れる所が無いのかキョロキョロ探しながらの運転は“不審者”に間違えられないかと…。

現在、住みよい地域をつくるために、行政・住民の皆さんと一緒に地域協働体の設立に向けた話し合いに参加しています。地域でどんな夢を描きどう仕組みを作っていくか。支援ド（ジ・エンド）とはならず悩みは続きます。

おしらせ

一関 協働のまちづくりフォーラム

近年、より住みやすく、より豊かな地域社会を築くまちづくりが行われています。そこで、講演や事例発表を通じて、今後の協働のまちづくりと、復興に向けた取り組みについて共に考えるフォーラムを開催いたします。

【日時】平成27年2月7日(土)13:00~16:00
【場所】一関文化センター 中ホール
【料金】無料
【問合/申込】いちのせき市民活動センター
【電話】0191-26-6400

室根 地域づくり講演会

室根まちづくり協議会では、全国町村会長で長野県川上村長の藤原忠彦氏を講師に、「地域の特徴を活かした地域づくり～農家一戸あたり平均年収2,500万円となるまでの村施策～」と題し、地域づくり講演会を行います。

【日時】平成27年2月21日(土)18:00~19:30
【場所】室根曲ろくふれあいセンター
【料金】無料
【問合】室根まちづくり協議会事務局
【電話】0191-64-3802 (室根支所内)

東山 東山和紙活用作品展

東山和紙活用作品展実行委員会では、東山和紙で作ったアイデア作品の展示会を開催します。東山公民館を会場に、独創性、完成度、取り組みやすさの観点で審査された小学生、中学生、高校・一般の部の作品に注目!

【期間】平成27年2月10日(火)~2月22日(日)
【場所】東山地域交流センター
【料金】無料
【問合】東山和紙活用作品展実行委員会
【電話】0191-47-4525 (東山支所内)

藤沢 第16回一関藤沢市民劇場 白亜の石階「白沢の杜」

今回は、西口地区白沢神社にまつわる伝説を題材にした創作劇を上演します。市内外からのたくさんのご来場お待ちしております。

【日時】平成27年2月22日(日)14時開演
【場所】藤沢文化センター縄文ホール
【料金】大人1,000円(当日1,500円)
中・高生500円(当日700円)
小学生以下無料(要入場整理券)
【問合】一関藤沢市民劇場実行委員会
【電話】0191-63-5515 (藤沢文化センター内)

千厩 奥玉地域づくり講演会 「里山資本主義と奥玉の未来」

「里山資本主義」著者の藻谷浩介氏を講師にお招きし、「里山地域はどのようにして生き残っていくべきなのか」「若者を地域に定住化させる方法」等についてお話しして頂きます。
(千厩の方に限らずどなたでもご参加頂けます)

【日時】平成27年3月8日(日)14:00~16:00
【場所】千厩雑新館(奥玉公民館隣)
【料金】無料
【問合/申込】奥玉公民館(0191-56-2950)
※会場の都合により2月27日までに申込みください。

一関 さくらなみき自閉症美術館 第14回企画展

さくらなみき自閉症美術館では、「のぞいてみよう～米盛大翔と仲間たち～」をテーマに、企画展を開催します。鹿児島出身の高校生アーティストの、色彩豊かなグラフィックの世界をお楽しみください!

【期間】平成27年1月17日(土)~3月22日(日)
【場所】さくらなみき自閉症美術館
【料金】無料
【問合】さくらなみき自閉症美術館
【電話】080-8204-2909

花泉 おはなし会

花泉図書館では、ボランティアサークル、図書館職員による絵本の読み聞かせ、紙芝居、手遊びなどが楽しめるおはなし会を開催します。毎月定期的に開催しておりますので、お気軽にご参加ください。

【日時】平成27年3月8日(日)11:00~11:30
【場所】花泉図書館
【料金】無料
【問合】花泉図書館
【電話】0191-82-4939

大東 ふるさとの風景～芦東山先生顕彰会とつくる思い出の写真展～

芦東山先生顕彰会より提供頂いた写真資料による特別展です。普段各個人の家の中に保管され目に触れることの少ない昔の写真資料から地域の昔の生活や文化の様子「ふるさとの風景」がみてとれます。

【期間】平成27年1月24日(土)~3月29日(日)
【場所】芦東山記念館
【料金】一般/300円 高校生/200円等
【問合】芦東山記念館
【電話】0191-75-3861

川崎 いちご狩り

甘くて美味しい、いちごの収穫を体験できます。お土産用のいちごも販売しています。ご家族連れでどうぞお越しください。赤いいちごが無くなり次第シーズンとして閉園になります。平日は要予約となります。

【期間】平成27年2月1日(日)~5月17日(日)
【場所】観光いちご園「もぐもぐの里」
【料金】大人1200円 小人1000円等
【問合】もぐもぐの里
【電話】090-6854-4569

今月の表紙



大船渡線の真滝駅と陸中門崎駅の間を流れる北上川。汽笛を鳴らし鉄橋を渡り始めた気動車が勇ましく見えます。

Q&A あなたの「知りたい」にスタッフが答えます

Q 昔と比べて、ボランティアはどう変わってきたの?

A 昔は、ボランティアとは、相手よりも優位に立っている状態、やりたいことをやっているなど、自発的に無償で奉仕する人の事を指していました。現在は、専門知識を活かし楽しみを共有したり、地域や対象者の必要性があるなど、価値を創造する人の事を指します。

